

5. 愛知工業大学防災マニュアルの作成

1 経緯

本学には防災マニュアルが整備されていないことから、地域防災研究センターが設立されたのを機に、マニュアル作成の機運が高まった。平成17年3月より、地域防災研究センター内にワーキンググループを立ち上げた。6月には大学事務局からも委員をお願いし、マニュアル作成ワーキンググループを発足させ、センター長を中心に防災マニュアルの作成作業を開始した。

平成17年9月に「緊急事態対策本部設置規定・運用細則・緊急防災放送設備利用マニュアル」が大学協議会で承認され施行された。対策本部内に「緊急事態対策室会議」が設置されマニュアル作成業務が具体的にスタートした。地域防災研究センターからは、センター長が対策室長として、教員1名、ポストドクトラル研究員1名が専門委員として参加した。

対策室会議は月に1回のペースで会議は開始され、「従来見られた単なるマニュアルではなく、使えるマニュアル＝実践的マニュアル」の作成を目標に掲げて作業に入った。

2 特徴

マニュアルを作成するためにまず次の基本方針が決定された。

- (1) 大学として全体で取り組む
- (2) 学長をトップとする組織
- (3) 予算措置をとる
- (4) マニュアルだけでなく防災体制にも取り組む
- (5) 地域防災研究センターを活用する
- (6) 防災をアピールできる大学（緊急地震速報、安否メールの導入）
- (7) 地域との連携

実践的マニュアルとするために以下の基本構想が採用された。

- (1) とりあえず、地震発生から3時間後を時系列で整理する。
- (2) 部署ごとに、誰が、何時、何をなすべきかを整理する。
- (3) 縦軸を時系列、横軸を部署名としてマトリックスで表示する。
- (4) A(平日昼間講義帯)、B(平日夜間講義帯、土曜日午後・夜間帯)、C(休日、休暇、深夜時間帯)にわけ、それぞれマニュアルを作成する。
- (5) 予備対策などについては順次整備する。

基本的構想に沿って、記述すべき項目の洗い出しを行う一方で、以下の点に留意し実践的マニュアルの作成を進めた。

- 1 対策本部長には学長が当たるが現実的には不在な場合が想定される。副学長以下指揮権順位をあらかじめ表で明記し、誰が対策本部長となるかを明らかにしておく。
- 2 将来、緊急地震速報が導入されることを前提としたマニュアルを作成する。地域防災研究センターが緊急地震速報に関する研究を実施していることから、全国初の導入大学として位置づける。
- 3 単なるマニュアルで無く実践的マニュアルであるためには設備の整備が不可欠であり、予算的措置をとる。サイレン・放送設備を整備する、他キャンパスへの送信も行う。

3 マニュアルの概要

平成 18 年 5 月に対策本部会議が開催されマニュアルが承認された。マニュアルの概略（対策本部会議資料）は以下のとおりである。

1 マニュアルの骨子

- 1) 昼間講義中を想定した（夜間、祝日については今後検討する）
 - 2) 以下の時系列でシナリオ的に作成した。
 - a. 注意情報、予知情報（警戒宣言）発令時
 - b. 緊急地震速報発令時
 - c. 地震発生時
 - d. 地震発生後～沈静後①（0～45分後）、同②（45分～1時間半）、同③（1時間半～3時間）
 - 3) 各部所の対策と行動を具体的にマニュアル化した。
 - a. 誰が、何処で、何を行うか。

対策本部、防災研究センター、営繕、警備、教学センター、入試部、学部・学科事務、教員、学内諸施設、寮生、学内業者など
 - b. 準備、設置、行動についての項目の明示
放送、避難誘導、点呼、救急活動、安否確認、帰宅支援、宿泊所設置、寮生対応など
 - 4) 新しい技術の導入
- a. 緊急地震速報による放送設備の設置（サイレンおよび自動放送「地震です」）
- b. 避難、安否、帰宅、宿泊学生の氏名の把握を学生証で点呼確認
 - c. 携帯メール利用については検討中
- 5) 行動の具体化
- a. 避難経路、避難場所を示すリーフレットの教室常備
 - b. 地域防災研究センターに対策本部設置（免震建屋、非常電源・水・トイレの確保）
 - c. 地震災害情報収集、本山キャンパスなどとの連絡体制
 - d. 災害時必要な設備・道具などの準備・保管（今後整備）

2 シナリオ

20秒前：緊急地震速報により自動でサイレンがなる。その後自動で「地震です」の放送が始まる。

避難開始（講義担当教員が誘導）

地震発生：

～5分後：対策本部設置（地域防災研究センター1階、対策本部長は学長）。対策指示（消火活動、負傷者搬送、被災度確認）。

～45分：避難完了（サッカー場）。滞在学生・教職員確認。随時帰宅。

～1時間30分：帰宅困難者用避難所（10号館）開設。

～3時間：宿泊者対策（宿泊所、寮）

防災マニュアルの概要 (マトリックス整理表)

平日授業実施時(A)の場合												
事象(時系列)	大学としての対応事項	検討課題	対策本部	地域防災研究センター	教員	学科事務室	研究室	学生	教学センター	入試広報課	営繕課	警備課
緊急地震速報への対応	スピーカー・非常放送設備を用いて全学に伝達			緊急地震速報の配信 退避路の確保				退避路の確保		退避路の確保		
地震発生		各教室に避難場所を指示した掲示を黒板横に貼る	退避行動	退避行動	退避行動	退避行動	退避行動	退避行動 身の安全確保 云々...		退避行動		
地震発生時～地震沈静後①	学生・教職員の避難誘導	<p>組織図の作成(別途)</p> <p>避難場所の決定(学科,専攻別)誘導経路の設定(とりあえずは屋外避難その後安全施設への誘導)避難誘導の方法(講座,部局,建物,教室ごとに決める)</p> <p>建物内で混乱がおきないよう事前に避難経路の確保を確認する</p> <p>トランシーバーの扱い方を事前に体験(周波数の扱い方など訓練)</p> <p>現場担当者の任命</p> <p>マニュアル放送担当者による誘導</p> <p>地震感説明放送</p> <p>身体障害者学生への対応措置</p> <p>国際交流センターに居住する外国人についての対応</p>	<p>対策本部の設置,メンバーの参集,招集</p> <p>関連情報収集</p> <p>学生・教職員への情報伝達</p> <p>学生・教職員の避難誘導指示</p> <p>緊急救助・応急救護に関する指示</p> <p>初期消火に関する指示</p> <p>二次災害防止に関する指示</p> <p>防災対策班等への指示</p> <p>各部署への指示</p>	<p>センター対策本部の開設,センター設備の機能確認</p> <p>地震情報の収集</p> <p>提供,大学の地震情報提供</p> <p>余震情報の配信,道路・鉄道等被災情報の収集</p>	<p>避難場所へ誘導。講義中の場合は,担当教員が対応。非常動講義には,避難開始後は,原則帰宅願う。</p> <p>負傷者を救護室へ搬送</p>	<p>負傷者を救護室へ搬送</p>	<p>教員の指示に従って避難(センター広場,又はサッカ―場)</p> <p>教員不在の場合は,センター広場へ非難</p>	<p>教職員の指示に従って避難(センター広場,又はサッカ―場)</p> <p>教員不在の場合は,センター広場へ非難</p>	<p>ハンドマイク等を使って避難所へ誘導,避難所の開設</p>	<p>教職員の指示に従って避難</p> <p>負傷者の救護,搬送</p>	<p>建物被害確認</p> <p>立入禁止表示</p> <p>避難建物の決定</p>	<p>地域住民避難広場への誘導</p> <p>緊急車両の誘導</p>
	★救急活動 応急措置(保健室,応急救護所設置の可能性)	保護本部の確保	救護班,学生ボランティアの編成	負傷者の救護,搬送								
	★病院への連絡,搬送手順	収容先の確定,病院との事前打ち合わせ(協定締結)	ドクターヘリ着陸場の確保									
	★消火活動	火元と近隣の講義が協力して消火にあたる(消火機材は?使用方法訓練は?)										
	★被害状況の把握	施設設備,危険物被災状況を施設設備管理者等責任者,担当者(教員,事務職員)が確認し,適切な処置,報告										
	★二次災害の防止	設備点検など										
地震沈静後②	★安否確認	確認,連絡方法の検討(手順とツール)	<p>避難状況の把握</p> <p>第1次安否情報確認(学生,教職員)</p> <p>第1次被害状況の把握</p> <p>救護・救助に関する指示</p> <p>関連情報収集</p> <p>防災対策班等への指示</p> <p>各部署への指示</p>	<p>関連企業との連絡,引き続き情報収集</p>	<p>帰宅困難な学生は避難場所に集合させる。教員が本部要員である場合には,かならず他の教員に状況を説明,引き継いでから本部へ行くこと。</p>	<p>専攻長の指示で学生点呼の補助</p> <p>救護・伝達の補助</p>	<p>研究室講座ごとに専攻長へ報告</p> <p>補助</p>	<p>研究室講座ごとに報告,授業時に担当教員の指示に従う</p> <p>救護,伝達等の補助</p>	<p>教務課:点呼用紙を避難所へ</p> <p>学生課:点呼(合宿生,学生寮生,留学者)対応可能な教員が,点呼用紙を回収(回収用袋を予め準備する)</p> <p>点呼確認報告を本部へ連絡(教務課)</p> <p>救護班が任務に当たるほか,直近の者も救護活動にあたる(傷病者を担架等で収容先へ搬送)</p> <p>収容可能な病院の把握</p>	<p>各試験教室ごとに監督教員の指示に従う</p> <p>救護,伝達等の補助</p>	<p>建物・インフラ被害報告</p> <p>避難建物の決定</p>	
	★行方不明者の捜索											
地震沈静後③	帰宅指示	<p>残留学生家族への連絡</p> <p>残りの問い合わせ受付部署</p> <p>寮に帰城した場合,寮生の仮泊場所確保</p> <p>自家用車を利用して帰る学生の調整(集中洗濯の回避)</p> <p>就寝場所の確保</p> <p>井戸水が利用できるか確認</p> <p>吹き出しの検討(換気,扇等準備)</p> <p>学生ボランティアの編成</p> <p>時差通勤者についての検討</p> <p>非常持ち出し品の検討(各部署単位)</p> <p>第二本部棟上を通っている高圧線等には注意を促されるか確認</p>	<p>第2次安否情報確認(学生,教職員)</p> <p>第2次学内被害状況の把握</p> <p>学生・教職員の帰宅に関する指示</p> <p>帰宅困難者対策に関する指示</p> <p>関連情報収集</p> <p>復旧に関する方針決定及び指示</p> <p>防災対策班等への指示</p> <p>各部署への指示</p>	<p>関連企業との連絡,引き続き情報収集</p>	<p>徒歩帰宅可能な者は帰宅</p> <p>自家用自動車,公共交通機関利用者は交通状況が回復次第帰宅</p>	<p>学生の帰宅状況を見て,順次帰宅</p>	<p>徒歩帰宅可能な者は帰宅</p> <p>自家用自動車,公共交通機関利用者は交通状況が回復次第帰宅</p>	<p>徒歩帰宅可能な者は帰宅</p> <p>自家用自動車,公共交通機関利用者は交通状況が回復次第帰宅</p>		<p>徒歩帰宅可能な者は帰宅</p> <p>自家用自動車,公共交通機関利用者は交通状況が回復次第帰宅</p>	<p>建物・インフラ復旧</p> <p>手配報告</p> <p>工事? (復旧日程)</p>	<p>門ゲート閉鎖(本部指示による)</p>